

同時発表：農林水産省

令和3年6月22日  
都市局公園緑地・景観課**「2027年国際園芸博覧会」の開催に向けた準備を進めます！**

神奈川県横浜市における国際園芸博覧会については、2027年（令和9年）に開催することとし、国際博覧会に関する条約上の手続を進めることが閣議了解されました。

引き続き、国・地方公共団体・民間が協力して、開催に向けた準備を進めてまいります。

**1 開催の目的**

2027年国際園芸博覧会は、気候変動等の世界的な環境変化を踏まえ、我が国が培ってきた自然との関係性の中で、自然環境が持つ多様な機能を暮らしにいかす知恵や文化について、その価値を再評価し、持続可能な社会の形成に活用するとともに、国際的な園芸文化の普及、花と緑があふれ農が身近にある豊かな暮らしの実現、多様な主体の参画等により幸福感が深まる社会を創造することを目的としています。

**2 開催場所、開催期間及び規模**

開催場所：旧上瀬谷通信施設（横浜市）

開催期間：令和9（2027）年3月～9月

博覧会区域：約100ha

参加者数：1,500万人（ICT活用等の多様な参加形態を含む）

**3 博覧会のテーマ**

幸せを創る明日の風景（Scenery of The Future for Happiness）

**4 博覧会の種類**

国際博覧会条約に基づく認定博覧会

国際園芸家協会（AIPH）の承認に基づく国際園芸博覧会（A1）

**【資料】**

- ① 閣議了解
- ② 2027年国際園芸博覧会の概要

**【問い合わせ先】**

国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 緑地環境室 石川、大原

電話：03-5253-8111（内線32972, 32966）、03-5253-8420（直通）、FAX：03-5253-1593

## 2027年国際園芸博覧会の開催申請について

〔令和3年6月22日  
閣議了解〕

神奈川県横浜市における国際園芸博覧会については、2027年（令和9年）に開催することとし、国際博覧会に関する条約上の開催申請手続を進めることとする。

本国際園芸博覧会は、気候変動等の世界的な環境変化を踏まえ、我が国が培ってきた自然との関係性の中で、自然環境が持つ多様な機能を暮らしにいかす知恵や文化について、その価値を再評価し、持続可能な社会の形成に活用するとともに、国際的な園芸文化の普及、花と緑があふれ農が身近にある豊かな暮らしの実現、多様な主体の参画等により幸福感が深まる社会を創造することを目的とする。

このため、国際園芸博覧会の開催申請を行うに当たり、国・関係地方公共団体・民間が協力して、その準備を進めるものとし、現下の厳しい財政事情を踏まえ、以下の方針を確認する。

- 1 今後具体的な計画の策定に当たっては、国際園芸博覧会として適正な規模・質としつつ、費用の観点から効率性を追求すること。
- 2 会場建設事業については、長期的地域整備との整合性を十分図ることとし、長期的地域整備により行われるべき土地造成、施設整備等は会場建設事業から除外すること。
- 3 会場建設費については、建設費総額に占める補助対象事業の割合を3分の2程度とし、残余の部分は民間資金等により対応するものとする。補助対象事業の部分については、国と関係地方公共団体が同率の割合で負担するものとする。
- 4 会場運営費は適正な入場料の設定等により賄うものとし、国庫による負担や助成は行わないこと。
- 5 国際園芸博覧会の開催に関連する公共事業については、その必要性等について十分な検討を行い、通常の公共事業費の中での適切な配分により対処することとし、新たに国及び地方公共団体による特別の財政措置は講じないこと。
- 6 国の所要経費は将来にわたり既定経費の合理化により賄うものとし、特別の措置は講じないこと。

# 2027年横浜国際園芸博覧会の概要

- 国際園芸博覧会は、国際的な園芸・造園の振興や花と緑のあふれる暮らしの創造等を目的に各国で開催
- 最上位の国際園芸博覧会(A1)は、AIPH(国際園芸家協会-各国の園芸造園団体が構成-)の承認と、BIE(博覧会国際事務局-各国政府で構成-)の認定が必要(我が国では1990年の「大阪花の万博」に次いで2回目の開催)
- AIPHは承認済(2020年3月)であり、閣議了解(2021年6月22日)を受けてBIE認定に向けた調整を開始

## 開催概要

- 開催場所:旧上瀬谷通信施設(約242ha)  
(横浜市旭区・瀬谷区)
- 開催期間:2027年3月~9月(6か月間)
- 博覧会区域:約100ha
- 参加者数:1,500万人  
(ICT活用等の多様な参加形態を含む)

## 事業方針

- テーマ  
幸せを創る明日の風景  
~Scenery of The Future for Happiness~
- 開催意義

## 位置図



相鉄線「瀬谷駅」から北に2km

## 博覧会会場計画(イメージ)



様々なテーマ性を持つ「village」を展開し、花や緑、自然と人とのつながりがもたらす未来の風景を表現

(参考) 大阪花の万博会場写真



## 資金計画

- ・会場建設費 320億円(財源:国、地方自治体、民間の負担を想定)
- ・運営費 360億円(収入:入場料収入が中心、物販収入等)

Society5.0の展開

グリーンインフラの実装

観光立国や地方創生の推進

花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化

通信施設跡地の返還とまちづくり